

文字摺通信

第 91 号
2025年 7月 1日
発行:文字摺歴史文化社

福島市上野寺、天台宗 稻荷山 吉祥院 大林寺

石仏「ショケラを手にする青面金剛像」 しょうめんこんごう

「ふくしまの歴史と文化財 文字摺通信」は只今配信者数95名。その中で最年少は、福島高校三年生の渡部一磨さんです。渡部さんは同校のジャズ研ではトランペットを吹く青年ですが、同時に石碑・石仏の研究者でもあります。私も石仏は好きであちこち見に行っていますが、ほんの趣味の域を出ません。しかし渡部さんはママチャリを駆って信夫盆地を縦横に駆け巡り、本格的に石碑・石仏を研究しています。この大林寺の青面金剛像も渡部さんに教えていただき、先日見に行ってきました。

では、青面金剛像とは何もの？『広辞苑』をひくと、「【青面金剛】①顔の色が青い金剛童子。大威力があって病魔・病鬼を払い除く。六臂三眼の憤怒相をしている。②俗に民間で行われる庚申会（こうしんえ）の本尊で、猿の形相をしているもの。」とある。続いて「庚申待」をひく。【庚申待】庚申の夜、仏家では帝釈天及び青面金剛を、神道では猿田彦を祭って、寝ないで徹夜する習俗。その夜眠ると、人身にいる三尸（さんし）が人の眠りに乗じてその罪を上帝に告げるとも、三尸が人の命を短くするともいう。中国の道教の守庚申に由来する禁忌で、平安時代に伝わり、江戸時代に盛行。」とある。

一般に石仏庚申塔では、三尸が上帝にその人の日常を告げないように、「見ざる・聞かざる・言わざる」＝「見猿・聞か猿・言わ猿」で、目・耳・口を塞いでいる三匹の猿を青面

